

外林道子 個展 『體と臓』



《體と臓》 (2013) 中国画仙紙、色彩墨、墨 70.3 x 104.3 cm

展覧会タイトル 外林道子個展『體と臓』

会期 2014 年 1 月 11 日 (土) - 2 月 1 日 (土)

会場 東京画廊+BTAP | 東京
〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第 4 秀和ビル 7 階
TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689

開廊時間 (火—金)11:00-19:00 (土)11:00-17:00
閉廊日 日、月、祝

アーティスト・トーク
2013 年 1 月 11 日 (土) | 15:00-16:00

オープニング・レセプション
2013 年 1 月 11 日 (土) | 16:00-18:00
東京画廊+BTAP にて

お問い合わせ 鈴木 佳世 (kayo.suzuki@tokyo-gallery.com)

この度、東京画廊+BTAPでは1月11日(土)より外林道子個展「體と臓」を開催いたします。

外林道子と東京画廊+BTAPの付き合いは、1977年に弊廊が開催した『摩崖碑拓本展』から始まりました。以来、書の表現について共に思考しながら今日まで続いています。書が文字としての意味を超え、アートの一表現形式をめざした創作の一端を、本展では展示致します。

タイトルの「體と臓」は、體が書体の体で漢字のかたちを表わし、臓はそのかたちの中で変容する墨の様子を表わしています。漢字の起源を踏まえながら、書を近代の芸術というコンセプトのなかで新しい表現として位置づける意味が込められています。情報メディアの発達によって、アートもグローバルスタンダード化が進み、今日では作品が生まれる風土(ローカリティ)を考えなければ表現の多様性が失われてしまいます。東洋的な表現形式のありかたを問い直す必要がある時代と言えるでしょう。



《體と臓 4》 (2013)

中国画仙紙、色彩墨、墨 70.3 x 69 cm

外林道子は8才より書を学び、1964年に宇野雪村に師事して前衛書の指導を受けました。書家として1965年に毎日書道展に初出品で入選し、以後上田桑鳩が起こし宇野雪村が継承した



《體と臓 2》 (2013)

中国画仙紙、色彩墨、墨 60 x 67.8 cm

奎星会を中心に今日まで活動しています。他方、1990年頃から本格的にアートの表現としての新しい書の造形を考え始めました。前衛書の先輩であった宇野雪村や比田井南谷、上田桑鳩の作品を見直しながら、書の世界への見方を越え、現代美術の表現に関心を向けます。書においては、手を動かすことから字の構成が理解され、目が作られてゆきます。一方、グローバルなアートにおいては、客観的な視点から見つめることから出発し、そこで構成を考え、制作へと移ります。この、いわば「目が手を動かす」創作こそ、外林の新しい挑戦といえるものです。

初日の1月11日(土)16:00より、作家を囲んでのオープニング・レセプションを開催する予定です。皆様のご来場を心よりお待ち申し上げます。

外林道子

- 1947 広島県福山市生まれ
1954 8歳より書を学び始める
1964 大東文化大学中国文学科入学、上京、宇野雪村に師事前衛書の指導を受ける
1965 「毎日書道展」(毎日新聞社主催・東京都美術館)初出品入選、以後毎年出品
1965 「奎星展」(奎星会主催・毎日新聞社後援・東京都美術館)に初出品[特選]受賞、以後毎年出品
1978 「現代女流展」に初出品、今日に至る
1987 「毎日書道展」(毎日新聞社主催・東京都美術館)グランプリ受賞
1991 ベルリン映画祭参加作品「四万十川」(恩地日出夫監督)の題字揮毫、以後「結婚」
(恩地日出夫 監督)、「日本への遺言」(加藤シズエ・黒柳徹子トーク番組)等を揮毫
1996 「平成の手鑑」(小野道風記念館)／愛知・作品「壽」記念館収蔵
1997 「比田井天来一門展」に出品
1998 「現代日本の書代表作家展・パリ展」(三越エトワール)／パリ
1998 「毎日書道展第50回記念パリ展・帰国記念展」(毎日新聞社主催・東京日本橋三越)出品
1998 「1998 東京 BESETO 国際書画展」(東京都・東京都歴史文化財団・毎日新聞社主催)
(東京 江戸東京博物館)出品
1999 「書で迎える2000年展」(ホテルオークラ・メゾ)／東京
1904 「日中女流書道家代表作品展」(毎日新聞社主催・東京 北京開催)出品
1905 「日韓女流書道展」(東京・ソウル開催)出品
1908 「現代日本書家代表書法展 IN 台北」(毎日新聞社主催)出品
2011 世界の書「全北ビエンナーレ」(韓国)招待出品
2012 「世界の文字芸術展」日本代表20人選抜
作品「古代文字へのロマン」「丙」「丁」はドイツ・アート財団に収蔵
2012 「アートフェア東京2012(東京画廊+BTAP)」(東京国際フォーラム)／東京

【個展】

- 1979 個展(下宮画廊)／福山
2001 「Continued Dots」(CAELUM GALLERY)／ニューヨーク
2007 「非実態的文字」(SUSHIDEN GALLERY)／ニューヨーク
2008 「Continued Dots」(GALLERY ONISHI)／ニューヨーク
2010 「internet」(GALLERY ONISHI)／ニューヨーク

【主なグループ展】

- 2000 「YANG ART JAPAN 2000」(ゴールドデンギャラリー)／ニューヨーク
2004 「Caelum Gallery 企画展」(セラムギャラリー)／ニューヨーク
2007 「10人の書のかたち」(洋協ホール)／銀座
2011 「20次元を超えて」(横浜赤レンガ倉庫)／横浜
2012 「40ーあしたを書く」(横浜赤レンガ倉庫)／横浜
2013 「2013-Sho is it」(横浜赤レンガ倉庫)／横浜